



# ハカルワカル広場 だより

八王子市民放射能測定室 第33号

発行元 八王子市民放射能測定室 ハカルワカル広場 2020.7.20発行  
〒192-0053 八王子市八幡町 5-11 八中ビル2F

HP <http://hachisoku.org> ✉ [hachisoku@gmail.com](mailto:hachisoku@gmail.com) ☎ 042-686-0820

郵便振替口座:00180-8-290904 八王子市民放射能測定室



## 核と右肩上がり時代の終焉

ボランティア 二宮 志郎



### 右肩上がりの時代

新型コロナウイルスがもたらした事態は何だったのか。そのことは多くの学者に予測されていたのに、私達は何故無防備にそれがやってくるのにまかせていたのか。無防備にならざるを得なかった理由はどこにあるのか。

ある学者が話の中(注)で上のグラフを出してきて、原因は地球環境に対して人類が与えている影響があらゆるところで急激に起こっていることを上げていた。野生動物と人間活動の境界を急激に

(注) : Peter Daszac, [The ecology of pandemic era](#)

変化させることが、野生動物の中にしかなかったウイルスを人間界にもたらすことにつながっているらしい。そしてその頻度は確実に増えてきているというのだから、第二、第三のコロナ騒動も覚悟しておく必要がある。

グラフの元データは [www.igbp.net](http://www.igbp.net) にあり、そこからダウンロードすれば一つ一つのグラフを拡大してみることもできる。たくさんあるグラフの横軸は始まりが 1750 年、赤い字で書いてある点が 1950 年、右端が 2010 年である。

左半分の社会経済的傾向は全て急激な右肩上がりのグラフになっているが、その急激な上昇が始

まるのは赤い印のちょっと左からというのが多い。それは核の時代と同期しているように見える。

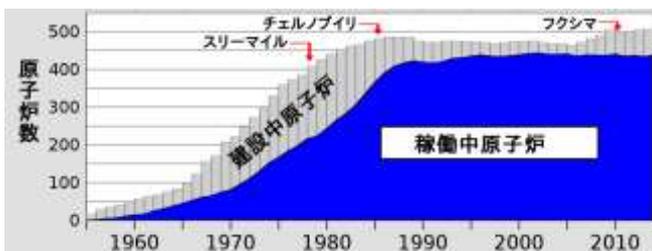
## 人新世

この人類が地球環境に大きな影響を与えることになる新しい地質年代として「人新世（アントロポセン）」という名前が提案されている。そして、その始まりの定義としては「1945年のトリニティ実験（広島・長崎の前にアメリカがニューメキシコで行った人類最初の核実験）」とする説が有力らしい。

この人新世なるものの初期の急激な右肩上がりがいづまでも続くなどということはいえない。

ただ私達の人生は、あり得ない状況の中にある異常をあたりまえと勘違いできるくらいに十分短い。今生きている人達の大半はトリニティ以後に生まれていて、人新世の中で育っている。冒頭で上げた「何故無防備にコロナの事態を迎えてしまったのか？」という問いへの答もここにあるのではないだろうか。

各グラフの赤い印の1950年と右端の2010年の中間、1980年の時、私はまだ学生だった。あのころを思い出してみると、「右肩上がりをいつまでも続けることはできない」という警告はすでにあちこちであった。しかし世界の回答は「まだまだ行ける」ということだったのか、グローバリズムによる市場の拡大は右肩上がりの時代を2000年を越えて引きずっていった。

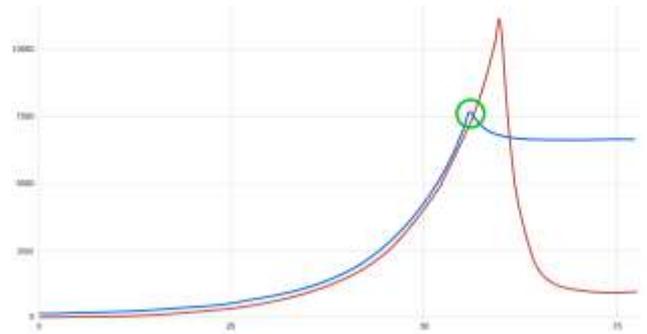


(出典: Wikipedia, Nuclear\_power)

原発の推進もその回答の一つだった。右肩上がりを支えるエネルギー源ということだったが、原発の場合はスリーマイル、チェルノブイリの事故を経験して1990年には右肩上がりは終わっている。右肩上がりが続いていたら福島の実験は一回ですんでなかったかもしれない。

## オーバーシュートの悲惨

コップに水をどんどん入れていくと、表面張力で縁から盛り上がっていき、ある程度まではコップの容量を越えるところまで水を入れることができる。オーバーシュートとは、この容量を越えた分の水だと考えればいい。盛り上がった水の量が多いと表面張力で支えきれなくなって溢れ出る時の量も多い。



上のグラフで赤線は激しいオーバーシュートが起こった例、青線は小さなオーバーシュートが起こった例を示している。激しいオーバーシュートが起こるとその反動が大きく、グラフの赤線は劇的な減少を伴っている。この劇的な減少は場合によっては悲惨な状況を作る。コップの水の場合水がこぼれ落ちるだけだが、人口だったら大勢の人が死ぬことを意味する。おそらく社会的経済的立場の弱い人から先に悲惨な死に方をすることになる。

赤線と青線の違いは、容量オーバーにどれだけ早く気がついて右肩上がりを止めるかにかかっている。

## いかに終焉させるか

新しいウィルスによる疫病、地球温暖化、放射能汚染、生物種の絶滅、こういった様々な問題は、右肩上がりの時代が終わるとともに自然と終息するだろう。その時に人類も終焉していれば元も子もない。もし人類が生き残れたとしても、とてつもなくたくさんの悲惨な死の後に生き残ったのであればあまりに悲しい。

新型コロナウイルスは「人類はもうオーバーシュートのところまで来てしまった」という事の警告の一つだったのだろう。上のグラフの緑の丸の領域に来ているということだ。これから先、赤線をたどるか、青線をたどるか、それは人類の行動いかんによる。

過去の実績を考えれば、この先人類が考え直しで行動を改めていくなどということはいえない気がする。しかし、行動を改めていくことは、様々な矛盾を抱えながらも少しずつ始まっている様にも見える。とにかく、オーバーシュートを小さくすることにつながる努力はどんなに小さなことであろうと意味があると思いたい。

起きている事実から目をそらさないようにすることは第一歩であり、それは誰にでもできる。冒頭に上げたグラフや、様々なデータを最新情報で更新しながら、何が起きているのかを意識の中に置いていきたい。「ハカルワカル」とは正にそういうことである。



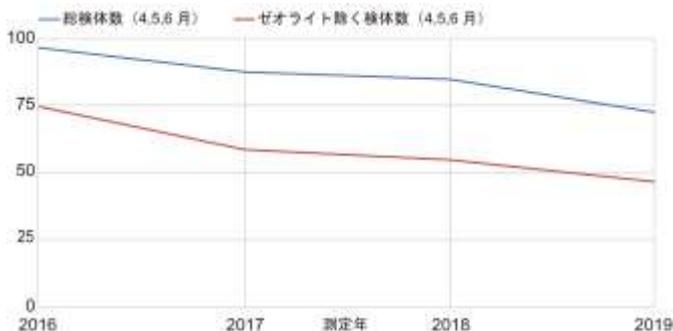
## ハカってワかった話

二宮 志郎

いつかその日がやってくる、やってこなくては困る、と思っている日があります。「もう放射能は測らなくてもいい」という、そういう日です。残念ながらその日はまだです、しかし「測ろうと思っても測れない」という日が先に来てしまいました。ご存知のように、新型コロナウイルスの影響でハカルワカル広場の測定活動は3,4,5月と完全に止まってしまいました。6月になって午前中限定の形で再開しましたが、まだ以前の様な測定活動に戻れる日は見えていません。

というわけで、今回は測定データがないところでの「ハカってワかった話」になります。過去のデータを参考にしながら、「もう放射能は測らなくてもいい」日は来るのだろうか、それを少し考えてみたいと思います。

### 最近4年間の測定



4,5,6月という季節は、筍や山菜の測定もあり、1年のうちでは比較的測定活動は活発になる時期でした。それも最近4年くらいでは、放射能が検出されることはほとんどなくなり、土壌やキノコの測定でまだ福島事故の影響が消えてないこと、食品類の測定では不検出になること、そういうことを確認する意味での測定が主になってきていました。

上記のグラフが示しているのは、4,5,6月の測定数の推移です。粘り強く測定活動を続けてくれている人がいますが、微減傾向にあることはたしかです。不検出の結果が出るのがほぼ確実になってくれば、測定が減るのは自然の流れです。

### 事故さえなければ

放射能放出を心配しなければいけないような事故が起こらなければ、このまま微減傾向が続きます。しかし、そういう事故が起こらない日々が続く

ことはどこまで期待していいのでしょうか。

原子炉が事故を起こす確率を見積もるのに、X炉年あたりに1回というような表記が出てきます。この炉年という単位は、いくつの原子炉を何年動かしたかということです。1つの原子炉を10年動かした場合、あるいは10の原子炉を1年動かした場合、どちらもそれは10炉年ということになります。

世界規模では、商用炉に限れば約15,000炉年の中で、スリーマイル、チェルノブイリ、フクシマと大きな事故が3回起こっていて、約5,000炉年に1回という数字が出てきます。日本に限れば、約1,500炉年の運転でフクシマ事故を起こしているのです、1,500炉年に1回という数字が出てきます。

しかし、これらの数字はいかにも心もとないです。100万炉年くらいの経験に基づく数字ならもう少し頼りにしていいと思うのですが、世界も日本もあまりに経験値が低いわけで、出てきている数字はそれほど信頼できる数字とは言えません。

とにかく、原子炉をたくさん動かすと炉年数は増えます。世界では今現在も400を越える炉が動いているので、10年続くと4000炉年を越えていきます。その数を1/10の40に減らすと4000炉年に達するには100年かかります。

### 世界の稼働原子炉を減らさずしては、

「もう放射能は測らなくてもいい」という日が確実に来ることを想定できません。放射能は国境を越え、海を越え飛んでくると考えると、400を越える稼働中の原子炉は、「運が良ければ」という前置きなしに、その日を期待できなくします。

仮に運がものすごくよかったです。そうすれば事故は起こらなくて、撒き散らされる死の灰はないでしょう。しかし、死の灰は使用済み燃料プールか、キャニスターの中か、どこかそういうところで、もう一つ別の運を期待して保管されていることとなります。もしそこで運が悪いことになると、、、やっぱり放射能測定が必要になってしまい、その日は遠のきます。

運にたよらないようにするには、炉年数を小さくすることです。稼働中原子炉をゼロにすれば、100年経とうと、1000年経とうと、ゼロをかけるのですから0炉年です。その時の事故に会う可能性はゼロで、それだけは確かです。

測定結果 (2020 年 3 月~2020 年 6 月)

ゼオライトの測定値は初期値引き算前 (Cs134 の初期値は 30Bq/kg 程度)

検体	採取	県名	産地・採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 (Bq/kg)	95%範囲 (±Bq/kg)	Cs134 (Bq/kg)	95%範囲 (±Bq/kg)	備考
ゼオライト	2020. 6	静岡県	御前崎市	815	1000	51.2	11.9	35.7	8.4	御前崎 A
ゼオライト	2020. 6	静岡県	御前崎市	905	1000	47.8	11.4	43.2	9.9	御前崎 B
畑の土	2020. 6. 21	東京都	八王子市中山	1013	1000	29.0	7.0	15.6	4.3	
ゼオライト	2020. 6. 13	東京都	八王子市長房	1051	1000	16.1	5.3	31.8	7.3	長房 A
泥遊び用の土	不明		不明	662	1000	11.7	4.8	5.8	以下	

最凶の人工物質ダイオキシン類の話

維持会員 渡辺敦雄

1. はじめに

さる5月9日に、ハカルワカル広場主催のテレお茶会で、首記に関する話題を提供したので、骨子を紹介する。

ダイオキシン類は、日本では「カネミ油症事件による子孫への被害」、ベトナム戦争では「枯葉剤汚染による催奇性」などで、公害事件や戦争犯罪として知られる物質であるが、1983年以降、ごみ焼却炉の灰の中に毒性の強いダイオキシンを検出し1990年以降、産業廃棄物処理施設からの拡散による、一般市民への被害が恐れられてきた。

2. ダイオキシンとは？

(1) 化学式

- ダイオキシンとは、正確にはダイオキシン類と呼び、「ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン(PCDD)」「ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)」「ポリ塩化ビフェニール(PCB)」の3種の物質の総称で、異性体が400種以上ある。いずれもベンゼン環が2つ、酸素でくっついた形で、ベンゼン環の水素の部分に1つまたは複数の塩素が置換している構造である。PCDDの代表例を図1に示す。

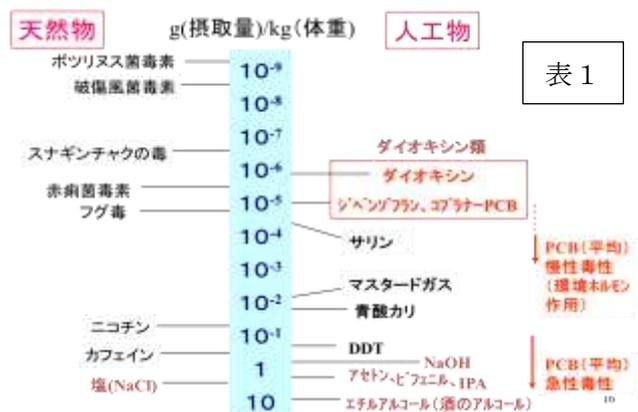
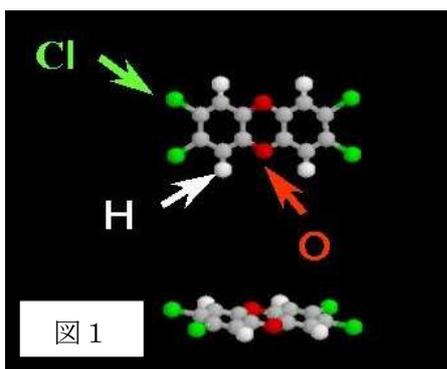
(2) 特徴

- 難分解性物質である
- 水に溶けず(汗や、尿、として体外に出にくい)
- 油に溶けやすい(体の脂肪にたまる)

⇒生物濃縮があり、食物連鎖の頂点の生物では数千万倍にも濃縮される

(3) 毒性(環境ホルモンとの関係)

ダイオキシンは極低濃度で発症する生殖毒性が強く、生物の種の保存にかかわる。なお参考に、人工と自然物質などの毒性(半数致死量)を表1に示す。青酸カリやサリンなどよりも恐ろしいことがわかる。



### 3. 非常に低いダイオキシンの規制値

ダイオキシンの環境基準は以下の通りであり、極低濃度で人類に影響がある。

大気（排煙規制の煙突出口ではない）：0.6 ピコグラム/m<sup>3</sup> (pg=10<sup>-12</sup>g、以下 pg-TEQ)、土壌：1000pg-TEQ/g、底質：150pg-TEQ/g、水質：1pg-TEQ/1000g (10<sup>-3</sup>ppt)

(注1) TEQ とは、毒性当量とよばれ、複数の異性体からなる毒性を最も毒性の強い 2, 3, 7, 8TCDD (毒性当量 1) に換算した値

(注2) 1ppt (1 兆分の 1) とは、東京ドームに角砂糖 1 粒を入れた、砂糖の濃度

### 4. 環境ホルモンの 1 種という意味

現在日本でも批准している、下記注 1 に示す残留性有機有害物質（環境ホルモン作用を有する化学物質）と定義された有機物の製造禁止条約（POPs 条約：ストックホルム条約：2004 年 5 月発効）に、ダイオキシン類が規定されている。

(注1) PCB、ダイオキシン類、フラン類、DDT、ヘキサクロロベンゼン、アルドリン、デルドリン、エンドリン、クロルデン類、マイレックス、トキサフェン、ヘプタクロール

- ・ 有害性。難分解性。生物濃縮（食物連鎖）があり、大気で長距離間移動するといういわゆるバタ効果懸念されている。

#### (1) 環境ホルモンとは

動物の生体内で、本来、その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性の物質であり、内分泌攪乱化学物質と呼ばれている物質である。

#### (2) 毒性

##### ①. 急性毒性

- ・ 皮膚障害⇒黒色化、ニキビ状皮膚炎、肝がん、神経毒、代謝異常

##### ②. 慢性毒性

- ・ 生殖異常、女性化、アンドロジェン（男性ホルモン）阻害作用、催奇性、発がん性など。

### 5. ダイオキシンはどのように発生するか⇒デノボ合成

ごみ処理や産業廃棄物処理施設からの発生は避けられない。

産業廃棄物に限らないが一般にごみを燃焼させると、ごみが高温燃焼して「炭素」「水素」「水蒸気」などに分解される。空気中の「酸素」「塩素」も加わり、ダイオキシン類の構成元素や化合物がすべてそろふ。

しかし、いったん分解された「炭素」「水素」「水蒸気」、空気中の「酸素」「塩素」などは、焼却場の排煙機構のどこかで、必ず 300～600℃になるので、そこで、「デノボ合成」という化学反応現象で、ダイオキシンが再合成され、煙突や、排水、残留灰などから、ダイオキシンが環境に放出されるのである。

### 6. おわりに：毒は世界を回る

ひとたび環境に排出された残留性有機物質は、水や大気で世界を回る。

少しの排出量でも生物濃縮で、数千万倍にもなる。それを人間が、食べたり、飲んだり、吸ったり、

することで、許容値を超えてしまう。

被害を最小化するには、市ごみ処理施設からのダイオキシン類の排出が十分低いことを市民が常に確認できる仕組みづくりが望まれる。

その一つが、汚染の分布を三次元で把握できる解析（三次元拡散解析）をすべての施設に適用し、環境での毒物のホットスポットを見つけ出すことが重要である。



## 2020 年ハカルワカル広場総会報告

共同代表 西田照子

今年の総会は例年と異なり、zoom というアプリを使ってのオンライン総会となりました。そのため直接お会いできず残念でしたが、遠くの方（アメリカの方も！）も参加していただけ、お話しできるという喜びもありました。

2012 年 1 月 29 日にハカルワカル広場を立ち上げて以来、8 年が過ぎました。「核兵器も原発もない世界に！」を目指して、日々の測定活動、お茶会（勉強会）をしています。小さな市民団体ですが、原点を忘れずここまでやってこられたのは、会員、ボランティアの皆さまのご協力のお陰です。今後とも手を携えて活動をして参りましょう！

総会では、事務局スタッフの承認、また 2019 年度の活動報告、決算、2020 年度の活動方針、予算についてご質問、ご意見を受け、出席者の承認を得、無事終了することができました。

総会の詳細、予算・決算の具体的な数字などは同封の「総会報告」をご覧ください。ここでは、総会後に行われた意見交換会での主な意見をご紹介します。

### 【意見交換会でのご意見】

- \* コシアブラ（秋田県産）の放射能について「東京新聞」に載っていた。福島では放射能についての意識が高いが、秋田ではネットで売られている。八王子でも山は汚染が残っているので測ることが大切である。
- \* （県などの検査では）山菜は持ち込んだものを測定しているが、持ち込まないものは測っていない。汚染が高いから測らないという考えだ。コシアブラは危ないことを伝えて行かなくてはならない。
- \* 出来る限り多くの物を測定するという考えは政府にはない。測らないと事実はわからない。政府のコロナ対策と同様だ。
- \* （柏市で）コロナの影響で、市民団体による甲状腺検査が中止になっている。検査については（福島県以外では）行政側からの補助金が全然ない。中止で検査のノウハウが途絶えるのではないかと心配だ。原発事故直後、柏市では（自腹を切って測定器を買うなどして）市民が給食を測り、除染作業も行政と一緒にいった。
- \* 今回のコロナ対策は第 2 次世界大戦のときの日本政府の対策と似ている。「大本営発表」「国防婦人会」に似ていて危険だ。人間はウィルスと共生するしかないのではないか。
- \* 六ヶ所村の核燃料処理施設にゴーサインを出している。どさくさ紛れに原発推進をしている。夏のオリンピックが終わるまで隠しているのだ。（コロナのための休校で）福島の学校での甲状腺検査ができないのが常態化されるのではないか。お茶会で勉強したことがとても役立っている。感染症は社会的弱者から感染する、決して平等ではない。
- \* 自分で堆肥を作っているが、放射能が蓄積されているのではないか。実際に測ってみたい。

（紙幅の制約上すべてのご意見を掲載できなかったこととお詫びします）



## 太平洋核被災支援センターからのたより

ボランティア 石井暁子

2月のお茶会のためビキニ事件のことを調べる過程で、『核の海の証言-ビキニ事件は終わらない』の著者、山下正寿さんに何度か資料を送っていただきました。その中に入っていたのが太平洋核被災支援センター（高知県宿毛市）発行の「支援センターたより」。そこには、ビキニ被災問題の普及や調査に関する最新情報が載っていて、まさにビキニ事件は終わっていないことを実感させてくれました。その中から二つの記事を紹介します。

### \*紙芝居『ビキニの海のねがい』



ビキニ事件の被災船は第五福竜丸だけではなく、高知の漁船も数多く含まれていた。その事実を子どもたちに伝えようと、高知の現職、退職教員9名により、紙芝居『ビキニの海のねがい』（原画：森本忠彦氏）が作られました。（2019年2月に完成）

「この世に核があるかぎり、人の苦しみは消えることはないだろう。だから、世界に広がる海のようにみんなの力で世界をつなごう。」

この紙芝居の原画展、上演会が各地で行われ、被災船員の遺族の方達があらためて何が起こったのかを知り、涙することもあるそうです。さらに県教委の承諾、協力により各市町村教委に配布され、学校で教材として利用されているとのこと。

### \*船員労災申請、ビキニ核被災国家賠償訴訟、そしてビキニ労災訴訟へ

2016年2月に元乗組員と遺族11名は全国健康保険協会に船員保険法の適用を求めて労災申請しましたが、「作業中の被曝は微量であり、疾病や死因との関係は確認できなかった」と不承認にされました。また2016年5月には45名の元漁船員・遺族が、60年もの間、被災資料を隠していた国の責任を問う国家賠償訴訟を起こしましたが、2019年、高松高裁判決は「国が意図的に隠し続けてきた証拠がない」などとして訴えを退けました。そこで、全国の被災船員を救済する道を拓くべく、2020年3月30日、元船員や遺族14名が、労災申請を不承認とした行政処分の取り消しを求めて高知地裁に提訴（「ビキニ労災訴訟」）しました。注目したいのは、この労災訴訟は、核兵器の使用や核実験によるヒバクシャの救済を求めた核兵器禁止条約第6条を具体化する活動として行われるということです。国際的な連帯を視野に訴訟を行うことで、グローバルヒバクシャ（本紙9ページ参照）救済への第一歩となるであろうこのような活動を支援していくことが重要なのではないのでしょうか。

#### ▽核兵器禁止条約第6条（被害者支援と環境改善）

一、締約各国は、自国の管轄下で核兵器の使用や実験によって悪影響を受けた者について、適用可能な国際人道法および国際人権法に従って、医療やリハビリテーション、心理療法を含め、差別することなく、年齢や性別に適した支援を提供し、これらの者が社会的、経済的に孤立しないようにする。

（日本語訳 朝日新聞デジタル参照 検索「[核兵器禁止条約日本語訳](#)」）

このほかにもビキニ核被災に関するたくさんの情報がある「太平洋核被災支援センター」のホームページをぜひご覧ください！ 検索「[太平洋核被災支援センター](#)」

※ DVD版 紙芝居「ビキニの海のねがい」も1500円で販売しています。

## 原爆の図 丸木美術館へ行こう

ボランティア 石井 暁子

ハカルワカル広場では、5月9日に有志で原爆の図丸木美術館を訪問する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で残念ながら見送りとなりました。そこで、美術館の魅力の一端をみなさまにお伝えできればと思います。



丸木美術館は1967年5月6日に開館しました。画家の丸木位里、丸木俊夫妻が、展覧会で日本全国から中国、朝鮮、モンゴル、ヨーロッパと何年もかかって巡回してきた「原爆の図」を展示するため、埼玉県東松山市の都幾川のほとりに美術館を建てたのが始まりです。

位里さんは、故郷である広島に原子爆弾が投下された3日後、俊さんは一週間後に広島に入り、二人で救援活動を手伝ったそうです。そして、米軍占領下の厳しい報道規制が敷かれていた時期に「原爆の図」連作を描き始めたのです。「原爆の図」は第一部《幽霊》が1950年に発表され、以降30年以上の歳月をかけて15部の連作として完成されました。



「原爆の図」(ほかにも「南京大虐殺の図」「アウシュビッツの図」「水俣の図」「おきなわ戦の図」などの大作がある)は、丸木夫妻の共同制作といわれています。西欧のデッサンを学び、油絵や絵本の挿絵を手がけて来た洋画家である俊さんと、墨の流しやぼかしの技法を使う水墨画家である位里さんが、二人で一つの絵を創ったのです。位里さんは、広島を原爆を描かなければと思ったけれど、風景画家なので人間の体のデッサンをあまりやったことがなかった。そこで俊さんに一緒にやろう、といて始まったそうです。これをお二人は「考え方が同じであれば、水も油も一緒にならぬことはない。むしろ一緒になってゆくところに、はじき合って盛上ってゆくのではなかろうか」(丸木位里「水と油」)、「二人で描いた絵は、不思議とわたしの想像を越え、おもしろく、深みのある物になっていくのでした」(丸木俊、『美術館ニュース』第53号)と言っています。



写真提供(3枚とも):原爆の図丸木美術館

1995年に位里さんが、2000年に俊さんが他界されましたが、その後も丸木美術館は社会へ発信する美術館へと発展し、人と人とのつながりを生む場であり続けて

ています。「原爆の図」を守り、未来へ手渡すために努力してくださるたくさんの方々のおかげで、私たちは今日も丸木美術館を訪れることができます。

参考資料:『原爆の図丸木美術館 開館50周年記念誌』原爆の図丸木美術館  
『ふたりの画家—丸木位里・丸木俊の世界』本橋成一著 ポレポレタイムス社  
原爆の図丸木美術館ホームページ <https://marukigallery.jp/>

## 「核兵器禁止条約」と「グローバルヒバクシャ」

ボランティア 鶴飼 暁

ハカルワカル広場のホームページがスマホ対応に変わって一年ほどになりますが、トップページの内容も同時に変わったことにお気づきでしょうか？変更以前には無かった、世界の原子炉の現在の状況と、核兵器禁止条約の調印国と批准国の数が逐次アップデートされています。

核兵器禁止条約とは、2017年7月7日に国連で122カ国の賛成によって採択された「核兵器を非人道兵器として全面的に禁止し、その廃絶の道筋を定めた条約」のことです。同条約の発効には50カ国の批准が必要で、採択から3年が経過した2020年7月の時点で38カ国の批准がなされています。この条約の推進に貢献したとして、核兵器廃絶国際キャンペーン（通称：ICAN）が、2017年にノーベル平和賞を受賞したことは、まだ記憶に新しいと思います。核兵器禁止条約の前文では、「核兵器の使用による犠牲者（ヒバクシャ）ならびに核兵器の実験による被害者にもたらされた受け入れがたい苦痛と被害を心に留める」とし、ヒバクシャと核実験被害者が受けてきた苦痛に言及した上で、「いかなる核兵器の使用も国際人道法に違反し、人道の諸原則・公共の良心に反する」としています。「ヒバクシャ」という言葉が、条約の中で使われていることから分かるように、被爆者の方々による長年にわたる核兵器廃絶運動が、この条約が多数の国々から支持されて国連で採択されたことに大きな役割を果たしてきました。広島で被爆されたサーロー節子さんは、核兵器禁止条約は「核兵器の終わりの始まり」と訴えかけ、世界中の多くの人の共感を呼んだのです。

この「ヒバクシャ」という言葉を、更に広い意味で発展させた言葉に「グローバルヒバクシャ」があります。『マーシャル諸島 終わりなき核被害を生きる』の著者である竹峰誠一郎氏は、著書の中で、「グローバルヒバクシャとは、『安全保障』あるいは『経済』のためなどと核問題を捉えて思考停止するのではなく、広島・長崎の原爆被害とともに、世界各地で核被害を訴える人びとの存在を視野に収め、甚大な環境汚染が地球規模で引き起こされてきた現実を想起する、核被害の可視化装置である」<sup>1)</sup>と定義しています。核兵器禁止条約においても使用されるほど今や国際的に通用するようになった「ヒバクシャ」という言葉を、「グローバルヒバクシャ」と定義し直すことによって、核の被害を、広島・長崎から現在に至るまで世界各地で引き起こされてきたものとして捉え直し、核の問題は“唯一の被爆国”である日本だけの問題ではなく、人類共通の解決すべき問題であることが明確にされるのです。そして、「グローバルヒバクシャ」という視点に立てば、人類最初の実験によって被爆したであろうニューメキシコ州のアメリカ人も同様に「ヒバクシャ」なのです。

第五福竜丸事件で誰もが知っているビキニ環礁は、マーシャル諸島共和国にあります。かつて米国による水爆実験によって、第五福竜丸の船員が放射能に晒されたことは知っていても、マーシャル諸島共和国の住民も同様に被ばくし、その影響が今に至るまで続いているということにまで想像力を働かせる人は少ないのではないのでしょうか？「グローバルヒバクシャ」とは、そうした忘れ去られた核の被害者にもスポットを当て、可視化していく作業の必要性を訴えかける言葉でもあります。

最後に、竹峰氏の著書から、2014年にビキニ被ばく60周年でマーシャル諸島を訪問した福島の学生達に向けたマーシャル諸島共和国のトニー・デブルム副大統領の言葉を引用します。

「否定し、嘘をつき、機密にする。マーシャル諸島でなされたことが、福島でも繰り返されている。これが核の文化だ」<sup>2)</sup>

(参考資料)

竹峰誠一郎著『マーシャル諸島 終わりなき核被害を生きる』 検索「[新泉社ウェブサイト](#)」

引用 1) p.370-371 2) p.388

「福島の学生がマーシャル諸島へ ビキニ被ばく 60 年で」 検索「[日本経済新聞ウェブサイト](#)」

「核兵器禁止条約の日本語訳全文」 検索「[ヒロシマ平和メディアセンター](#)」



都立 第五福竜丸展示館



## 測定室からのご報告とお知らせ

- \* コロナ禍による休室と映画会の中止・・・コロナウィルス感染予防のため、ハカルワカル広場を3月3日(火)～5月31日(日)まで休室とさせていただきました。また、映画会「太陽が落ちた日」を延期(のちに中止)とさせていただきました。大変ご迷惑をおかけしました。ご理解とご協力に感謝いたします。なお、6月2日より午前中の開室を再開しました。7月も午前中開室しています。
- \* 5月9日(土) 定例お茶会(講演会)「ダイオキシンの危険性」(講師 渡辺敦雄さん)  
休室中のため、zoomを使ったオンラインでの講演会となりました。一堂に会せないデメリットはあるものの、アメリカや北海道からもご参加いただけるというメリットもありました。zoomに不慣れなため、二度もリハーサルを行い臨みました。ベトナム戦争時の枯葉剤で知られるダイオキシンがごみ焼却施設でも再生産されるということ、毒性が極めて強いということを講演いただきました。詳しくはP.4～5をご参照ください。渡辺敦雄さんにわかり易く講演いただき感謝いたします。(参加者 23名)
- \* 6月6日(土) 2020年総会  
2020年の総会をオンラインで実施。すべて承認されました。(参加者 23名)  
詳細はP.6をご覧ください。
- \* 7月4日(土) 定例お茶会(講演会)「原発は地球温暖化防止に役立たない」(講師 二宮志郎さん)  
原発推進側の「原発は(火力発電ほど)CO2を出さない」という主張を、まず電力中央研究所の数値の信憑性を検証し、さらにウラン採掘から使用済み核燃料の処理に至るまでの全工程でのCO2排出を検証。また、人権、環境問題等の観点からも検討を加えた。再エネにも厳しい検証を加え、多方面から深く考える重要性を論じた。(参加者 26名、うち zoom15名)



### これからの予定

- \* 8月8日(土) 10時30分～ 映画「太陽が落ちた日」トークセッション zoomによるオンラインお茶会
- \* 9月5日(土) 10時～ 9月定例お茶会「汚染水の海洋放出について」(講師 渡辺敦雄さん)

### ～～コロナ禍について考える～～編集部つぶやき

- ✚ 福島原発事故の時と同じことが繰り返されたと感じる。つまり、十分な検査、測定を行わないので、実態が把握できない。結果、人命救助のための適切な対策が打てない。(西田)
- ✚ 超加速時代の産物コロナの警鐘、八王子でも感染が続いている。外出は散歩と買い物だけ、自宅で太陽光放物面ステンレス板金、孫の micro:bit 工作とコーディング。生き残れる世界にしたい。(佐々木)
- ✚ 感染拡大防止と社会活動の両立が難しい。電車に乗ると、乗客のマスク着用率はほぼ100パーセント。それでも東京の感染者数は100人超え(7/5)。自粛と要注意の号令だけでは乗り切れない。(石井)

## おしらせ

### \*\* 重要なお知らせ \*\*

映画「太陽が落ちた日」上映会を中止にさせていただきましたが、この映画はインターネットでもご覧いただけます。(アジアドキュメンタリーズ：<https://asiandocs.co.jp>)

また、7月14日から8月29日まで、日、月曜日、夏季休室(8/9～8/17)を除き、毎日ハカルワカル広場で上映します。インターネットの環境がない方はぜひハカルワカル広場までお越しください。(参加費無料)

ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室  
ハカルワカル広場  
お電話 問合せ 042-686-0820  
〒192-0053 東京都八王子市八幡町5-11 八中ビル2F  
HP: <http://hachisoku.org> メール: [hachisoku@gmail.com](mailto:hachisoku@gmail.com)  
【開室】火～金曜日:10時～15時、土曜日:10時～12時

ボランティア、維持会員募集中!  
お問い合わせはハカルワカル広場まで  
寄付も大歓迎です! ゆうちょ銀行 00180-8-290804(八王子市民放射能測定室)、  
他行からの振り込みは 018-0224460(八王子市民放射能測定室)